第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価(令和元年度実績評価)

《 評価の目安 》 達成率 80%以上:「5」 達成率 60~79%:「4」 達成率 40~59%:「3」 達成率 20~39%:「2」 達成率 19%以下:「1」

		総括表	総括表							令和元年度(中間見直し) ※実施したものは記入してください				令和元年度(実績評価)			
	市町村名	【区分】 ①「自立支援、介護予防・重度化防止 ②「介護給付適正化」 から選択してください	タイトル 現れ	伏と課題	第7期における 具体的な取組	目標	目標の評価方法		実施内容	自己評価		課題と対応策	実施内容	自己評価		取組の効果や 成果として 考えられること	
			31 FN 961	人C床風		(事業内容、指標等)	時点	評価の方法		評価 (1~5)		<u></u>	关爬内容		休風と別心泉	0.00,000	
ţ	鳥沢村	①自立支援、介護予防·重度 化防止	一部の高齢が立 が強く、対象のララ 極的に参加につ 地域性により、重 定を受けない場 申さ高齢者をあった。 い。 以上の高齢 り、まな、ほかの り、まな、ほかの で自立した本宅	護認定率は全国平均よ・ 高統者が多い。 ま、介護予防への意識 てプや介護形所・原産・積・積・ 10名。 ・ 生産化しないと介護総・ 自由が見られ、高齢化率・ 世帯が防事業参加がな 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	介護予防教室の開催 地域プウ養協の実施 辺辺知度対策 認知症切別期集中支援チームの本格 電機 電力では、100円の ができないの大変に が、100円の では、100	(年)回程度) -相談体制の充実(高齢者が集まる事業に出向き相談、年3回程度) - ケアランチェックの実施(60件程度) - 住宅改修・福祉用具に関する調査の 実施(全ての申請者を対象に点検) - 介護医療に関する多職種の関係者が 参加する研究会の実施(年20程度)		- 認知症初期集中支援チーム の訪問回数 - 認知症サポーター養成研修の 実施数 - 相談件数の把握 - 介護医療に関する多職種の	- 地域ケア会議の実施 - 認知症初期集中支援チームの 本格稼働 - 認知症サポーターの養成研修の 実施 - 相談体制の充実	3	・介量予防装室の所催 編4千年教室[月2回]及以前筋会(月2回)を予定とおり開催。 ・地域アウ森横の実施 列5月5日に実施。 ・認知な初期集中支援チームの稼働 認知金に思われるかへの家庭師院「高齢者が集まる事業(高齢者学級)に出向き認知症について の投稿や知識を受けた。 を表して、 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・経験を受けた。 ・イルスをして、 ・イルスをした。 ・イルスをした。 ・	回参加している。 正本、参加していない方への呼びかけにより参加者が増加しているが、男性の参加ないたが、男性の参加ないたが、男性の参加ないと検討 現在前りの数章や催し物などを検討 に登知を効果を主義が、必要を目標をは、経知を対象が、単立、後知を対象が、単立、接受等をしたが、接触の変更を表するが、計画 とおりの実行を目指す。	・認知症サポーターの養成研修 の実施 ・相談体制の充実 ・ケアブランチェックの実施 ・住宅改修・福祉用具に関する 調査の実施 ・介護医療に関する多職種の	脳イキイキ発達(20回)・参加者報べ330人、実人数27人、参加者からの下にこいての感觉として「頭を使う体操を教えてもらい良かった」、「鬱や糖、胃などの痛みの相談にのって もったり、予防体験を放てもらって動かったという可妨かった。 所容を食べ機能を実施。「今後のスヤによる確保体療の放送していての企画を終防止力策のため、3月については法制をしたが、事業参加者には電話により体弱の変化がおいます。 ・ 一手規工(回路機能(9月5日)、新登コロナウイルス感染防止対策のため、予定していた3月開催については延期とした。 ・ 認知症の相談があってもスムーズに底巻やか強につながり、チームの対象となら方がいなかた。今後もチームの活動について住民及び関係者に周知を図っていく。 ・ 認知症の4年説があってもスムーズに底巻やか強につながり、チームの対象となら方がいなかた。今後もチームの活動について住民及び関係者に周知を図っていく。 ・ 認知症がポーターの要は再移の実施 ・ 特別元年に月17日に一般住民を対象に実施(33名参加)。認知症についての正しい知識の書及、認知症の方への限力力を学び、認知症の方やその家族が住みよい地域づく でも対策でして経過。 3 4日間をリームの主義を関係し、認知症の家族を介護した経験者による調査会を実施。 ・ 相談体制の元ままに出向さ、様々な相談を受けた。2回。 ・ アアブランチェロク ・ カルマン・アブラン・アン・ターとの分と開催し、認知症の家族を介護した経験者による調査会を実施。 ・ 1日は移動の元まった。日本の主義を対象と解している。 ・ 1日はおりかないまた。 ・ 1日はおりかないまた。 ・ 1日はおりかないまた。 ・ 1日はおりかないまた。 ・ 1日はおりかないまた。 ・ 1日はおりないまた。 ・ 1日はよりないまた。 ・ 1日はおりないまた。 ・ 1日はおりないまた。 ・ 1日はおりないまた。 ・ 1日はおりないまた。 ・ 1日はおりないまたた。 ・ 1日はおりないまたた。 ・ 1日はおりないまたたまたまた。 ・ 1日はおりないまたまたまたまた。 ・ 1日はおりないまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまた	加している。 参加していない方への呼びかけに 参加者は増加しているが、男性の がないことが今後の課題であるた 3性向けの教室や催し物などを検 男性参加者数の増加を目指す。 の金初期集中支援テームの稼働、	自己評価の内容を請求え、 自立支援・運化防止等の 取り組みが実施できた。	
ī	鳥沢村	2 ②介護給付適正化	の取り組み 適正に認定にシ ジメントにとり受 サービスを見見歌 従て適正に定者 見込まれるなか。 料の増加を印制 精持している。 作機給付適に「アラフシュをは アラフシュをは、	うえて、適切なケアマネ 給者が真に必要とする か、事業者がルールに ービスを提供するよう促 や介護給付費の増加が 、不適切なサービス提 定給付費や介護保険 利して介護保険制度を	○ケアプラン点検 ○住宅改修等の点検(住宅改修の点 食、福祉用具購入・貸与調査) ○経覧点検・医療情報との突合	ケアプラン点検(60件)住宅改修の点検、福祉用具購入・貸		主要5等業の目標件数に対す 6実施数	- 厚介質認定の適正化・ ・カアブラム機・ ・ウアブラム機・ ・仕まで水像の直検、福祉用具購入・ は、 ・機覧点検・医療情報との突合 ・分 医給付費の通知	4	・悪子情報派の過正化 簡素入が野北上級定義をこいて100%事後点検を実施。 ・ ウアブラン点検	ビケアブラン点検や住宅改修の点検等は 専門的知識が必要であり、専門的知識の習得が必要である。	 ・ケアプラン点検 ・住宅改修の点検、福祉用具 購入・貸与調査 ・縦覧点検・医療情報との突 合 	画意及び委託した認定調査について1009年後自検を実施。 - シアブラン点検 - 白枝件数の3件 (4~3月) - 村内の事業所が作成した要介護認定更新者及び新規認定者のケアアランを翌月の10日までに提出(アセスメント表、居宅サービス計画書第1~3表、サービス担当者会 - 諸線3、実接経過記録、サービス利用票)しても5い点検。 - 住宅改修 - 福祉用見間する諸舎の実施 - 住宅改修 - 保住中国、中で、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	元年1月16日及び名和2年2月 に果のアプラン連体に関するア ザー液造率業を活用し、難員3名 プランに関する地域の管骨を図っ 更なる職員体制の整備及び専門 の署が必要。企作度は専門 職定持つ施時職員を任用して点 を続しているが、文件度以降はこ に、より点体を実施する予定。 に、住宅破後の様についても が知識が必要である。 が知識が必要である。	介護給付費適正化への取り	